

【国語科・小2・「なかまのことばとかん字」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には言葉による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。 (1)オ
- (学びに向かう力等) 言葉のもつよさを感じ、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

- ・学習課題の短時間での把握
- ・個別追究における子供の学びの一覧把握
- ・お互いの考えの画面共有、全体提示による学びの広がりや深まり

【つかむ】

学習を把握し、本時のめあてを設定する。

お友だちと「なかまことばクイズ」をしよう

【追究する】

カードを仲間分けした後に「なかまことばクイズ」を作成、出題する。

【まとめる】

なかまことばクイズを通して気づいたことを発表・共有する。

事例の概要

- ・様々な言葉を仲間分けし、何の仲間なのか考える。
- ・自分で「なかまことばクイズ」を作成し、意味によるまとまりがあることに気付く。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 電子黒板で「なかまことばクイズ」の例題に答えることで、活動の見通しをもつ。

【事例におけるICT活用の場面②】

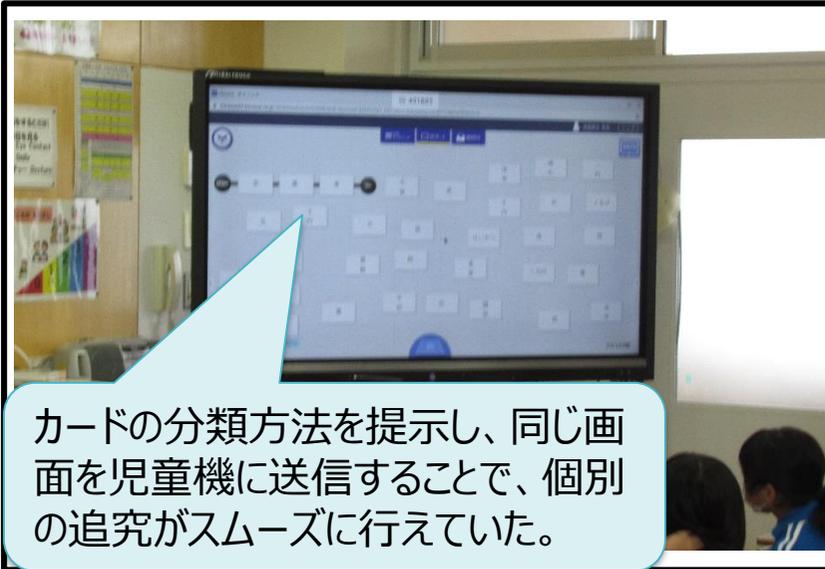
- 学習支援ソフトで教師機から送られてきた言葉カードの仲間分けをする。
- 自分でなかまことばカードを作成し、何の仲間の言葉か当てさせる問題を作成する。
- 学習支援ソフトで提出された「なかまことばクイズ」を電子黒板で拡大し、クラス全体で行い、友達の様々な考えに触れる。

【事例におけるICT活用の場面③】

- 「なかまことばクイズ」を通して、気付いたことや感じたことを発表、共有し、アンケート機能を使用して振り返りを行う。

【国語科・小2・「なかまのことばとかん字」②】

【事例におけるICT活用の場面②】

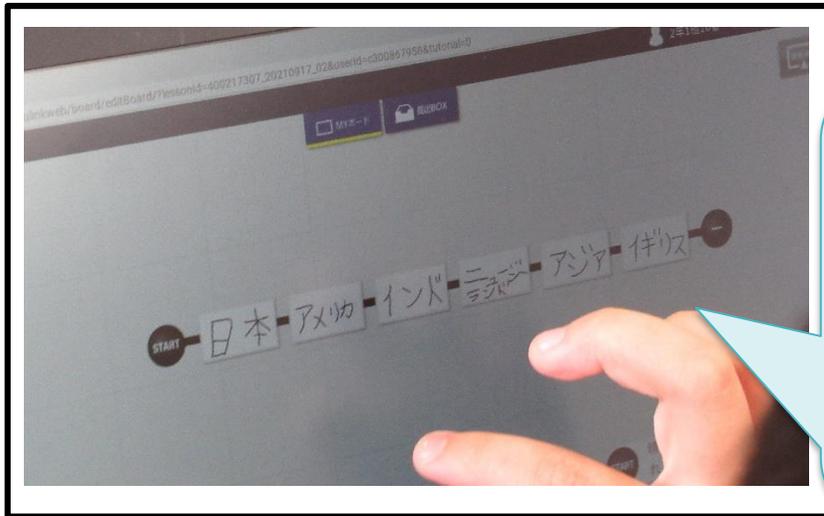


カードの分類方法を提示し、同じ画面を児童機に送信することで、個別の追究がスムーズに行えていた。



○追究する過程において、学習支援ソフトでカードの配布、各自の分類作業、教師への提出、画面共有が一瞬で行えるため、個別追究する時間の確保、授業準備の業務軽減につながっていた。

各自がICT端末内で多くのカードの分類を試行錯誤しながら行うことが出来る。



日本、アメリカ、インド…と、手書きでカードを作成し、国の名前の仲間をつなげて教師機に提出した。

○学習支援ソフトで自分で考えた仲間の言葉をつなげて教師機に送り、電子黒板でクイズ方式でプレゼンテーションを行った。

○考えを共有する場面では、何の仲間でも分類したのか児童によって意見が異なるため、友達の様々な視点での分類に触れることで、語彙を増やすことにつながった。

【使用したソフトや機能】・学習支援ソフト データ提出・受信、一覧表示、アンケート機能